

214

演題名：血液培養陽性ボトルの迅速同定キット、rapid BACproⅡとSepsityper kitの検討

演者：宮崎 真利子

共同演者：足立 睦宏、藤原 三奈、丹藤 真由美、井上 由美子

所属：(株)日本医学臨床検査研究所 第二検査部 細菌検査課

【はじめに】

血液培養陽性ボトルにおいて迅速に菌種同定することは、敗血症患者への適切な抗菌薬治療の為に重要である。質量分析装置（MALDI バイオタイパー；ブルカージャパン株式会社）を用いて、血液培養陽性ボトルから直接菌種同定を行うことができる前処理キット Sepsityper kit（以下 Sepsi 法；ブルカージャパン株式会社）と、rapid BACproⅡ（以下 rapid 法；ニッポーメディカル）の検討の機会を得たので、操作性及び性能評価について報告を行う。

【対象と方法】

対象は 2017 年 4 月 17 日から 5 月 19 日に陽性となった血液培養陽性ボトルの内、培養で単独菌の発育を認めた 34 件について比較した。測定前の前処理は各手順に従い Sepsi 法及び rapid 法を行い、MALDI バイオタイパーにて測定を行った。結果の比較は、サブカルチャーで発育したコロニーをセルスメア法で測定した同定結果を基準に行った。結果の評価は同定結果の一致と信頼性を Score value（以下 SV）で行った。評価の内訳は SV が 2.000 以上を A、

1.700 以上 2.000 未満を B、1.700 未満を C に分類した。

【結果】

セルスメア法との同定結果の一致率は rapid 法で 31 件（91%）、内訳は A 19 件（56%）、B 9 件（26%）、C 6 件（18%）であった。Sepsi 法では 29 件（85%）、内訳は A 15 件（44%）、B 8 件（24%）、C 11 件（32%）であった。前処理の作業時間は、rapid 法が 24 分、Sepsi 法が 30 分で、rapid 法が若干早く作業ができた。

【考察】

同定結果の一致率は Sepsi 法より rapid 法が若干良い結果となった。SV 1.700 未満（C 評価）の件数が Sepsi 法で多く見られた。Sepsi 法では処理中に血餅のような沈殿物を生じることがあり、その除去処理でペレット（菌塊）の回収量と作業時間に影響を及ぼした。サンプル数は少ないが操作性と性能について rapid 法が良好な結果となった。

連絡先 TEL075-631-6185（内線 642）